

第1回 宗像市世界遺産保存活用検討委員会 会議録

■日時：平成29年6月28日（水）14:00～14:40

■会場：宗像市役所3階 第2委員会室

■出席者：

【委員】西谷正（委員長）、日高圭一郎（副委員長）、葦津幹之、大方優子、河窪奈津子、黒木貴一、坂本和典、仲間浩一、早川祥三、福島敏満、藤田直子、山野善郎

【オブザーバー】宗像大社：神島亘

福岡県文化財保護課：入佐友一郎

福岡県世界遺産登録推進室：磯村幸男、岡寺未幾、松本将一郎

宗像市郷土文化課：白木英敏

宗像市世界遺産登録推進室：中村時広、徳永淳、高倉庸輔、岡崇

《質疑・意見》

1. 世界遺産グランドデザイン（仮称）について

●「生業」について

①基本目標にある「生業」とは、第一次産業か。市民の人口比率を考えると、第一次産業に関わる人は少ない。「生業」が第一次産業であると理解いただけるものなのか。

→世界遺産との関わりを考えた時、対象区域は農業、漁業との関わりが大きいと考えている。

人口比率としては第2次産業や第3次産業が多くを占めるが、世界遺産を守る上で、第一次産業が大事だということを、より多くの市民に共有されるように努めていきたい。

●第2章の基本方針と第3章の空間形成方針の関係について

②第2章の基本方針と第3章の空間形成方針はリンクしているのか。特に「伝える」の方針がリンクしていないように思う。

③基本方針を統合して空間形成方針にしているが、理由があるのか。「守る」と「受け入れる」を束ねる考え方もあると思う。束ねるのであれば束ねる理由が大切だと思う。

④都市系、教育系、農業商業系のお金の投入の仕方がそれぞれあると思う。県と相談して、各課と連動するように、仕訳をして、束ねた方が力の入れどころが見えやすくなると思う。

→今後、詰めていきたい。

●第3章について

⑤「空間形成方針」と「整備イメージ」という言葉をみると、ハード整備が主な印象を持つ。ソフト施策（ガイド、観光産業、情報発信、広報等）の議論もこのグランドデザインの中でののか。

→第4章に掲げることになると思う。具体的にはこれから考えていきたい。

38

39 ●**市内連携やランドデザインで議論すべき範囲について**

40 ⑥バッファゾーンの中には多くの地域資源があり、それらを守り、活かすことは大切なことだと
41 思うが、市内では高齢化が進み、空き家が増えていっている地域がある。そういった地域では、
42 現状のものを守ると言っても、守り手がいなくなっている。担い手の問題については、高齢化
43 や空き家に対応している部署との連携が必要だと思う。

44 ⑦災害の多い日本列島において、リスクマネジメント（災害）についてもランドデザインの中
45 で議論するのか？どこまでを議論するのかを次回示してほしい。

46 →市内に都市計画、漁業、農業、環境等の担当部署が参加する横断組織をつくっている。そこ
47 で積み上げたものを委員会に示していきたいと思っている。

48 →世界遺産の観点から、一次産業をどう考えるのか、人口減少をどう考えるかのメッセージを
49 ランドデザインの中で発信することが大事だと思っている。ランドデザインのメッセー
50 ジを市内の関係各課が受けて、日常業務に反映してもらえればと思っている。その連携をや
51 っていきたいと思っている。

52

53 ●**ランドデザインの位置づけについて**

54 ⑧景観計画の推進体制の中に、緩衝地帯の案件に対応する「景観デザイン会議（仮称）」を設けて
55 いきますと書かれている。関係各課と連携して取り組んでいくとの説明があったが、そうした
56 取り組みの中にこの会議も含まれているのか。

57 →景観デザイン会議は、当時は仮称であったが、今は既に設置されている。世界遺産登録後、
58 組織を見直す可能性がある。

59

60 **2. 次回開催日**

61 平成 29 年 9 月 26 日（火）午後 2 時～